



夏の合同研修会、とても有意義でした！

この夏休みには、2学期からの指導に生きる様々な研修会が、各校の創意工夫のもとに実施されていました。その一つとして、今年度から全市の小学校で実施している「幼保小架け橋プログラム」の研修を行われた学校もたくさんありました。ある小学校では、【保育参観】➡【保育参観報告会】➡【グループ協議】➡【全体会】という流れで大変有意義な研修を実施されていたので、ご紹介したいと思います。

【保育参観】

市立幼稚園、民間保育園（2園）、民間認定こども園の計4園の保育を同じ日に参観できる研修を実施されました。初めての試みでしたが、立場の違う指導者が「架け橋プログラム」の意義を理解し地域の子どもたちを育てていくことを大事にされていたことです。小学校の教職員は、4グループに分かれ、各園の方針を聞かさせていただき、幼児の様子、保育者と幼児との関わりなど熱心に参観されていました。



【保育参観報告会】

後日、まとめの研修会が小学校で行われ、数園でしたが、園からの参加もありました。参観した園ごとに、園児の姿や保育者との関係性など気づいたことを、スライドにまとめておられました。それぞれの園の幼児の様子や保育者との関わりについて交流し合い、教職員から次のような感想がありました。



- 子どもが、遊びに夢中になっている姿がよかった。
- 遊びながらルールを学び、必要性を感じて守ろうとしていた。
- 保育者の子どもへの前向きに頑張れる声かけ等がよかった。

【グループ協議】

報告会に続いて、参観を通して子どもへの関わり方、幼児教育から学んだことや小学校教育に生かすこと、また小学校の教職員が保育を見る視点の気づき等（以下に例示）をグループで共有されていました。

- 指示が明確であったので、園児がしっかり話を聞いていた。自分の指導を見直さなければならない。
- 子どものやりたい遊びを大事にされているので、夢中になっている様子があった。主体性を大事にされているのがよくわかった。入学後の子どもたちは、どうだろうか。私たちの授業は、どうだろうか。
- 子どもは、遊びたい思いをどんどん追究していく。探究的な学びをしている。これは、保育者がうまく環境をつくっているからだろう。

【全体会】

全体会では、グループ協議の内容を共有し、以下のことを確認されました。

- ◇幼児教育から学ぶことは多く、幼児期の学び方と児童期の学び方の違いはあるものの子どもが主体的に自己を発揮できるようにすること。
- ◇自己発揮するためには、幼児期から非認知能力を育むことが大切。
- ◇幼児期に環境を通して学んだことを基礎とし、小学校では、その上に学びを積み重ねていくことを意識することが大事である。



学校全体で組織的に取り組んでおられ、また自分の普段の指導を振り返っておられる姿が素晴らしいと感じました。

れっつ ちゃれんじ !!

秋を楽しむ 架け橋プログラム !!



運動会・学習発表会などの学校行事を交流の機会に!

2学期は、行事の多い時期。園児たちを招待して交流するのはいかがでしょうか。就学前施設に小学校の取組を知っていただく機会になり、また、園児にとっても「楽しそう!」と感じ、小学校という場所が安心できるのではないのでしょうか。これからのよい交流へとつながっていきます。ぜひ、ご検討を!

生活科「あきともだち」の授業を通してよりよい交流を!

園児たちもよく似た経験をしていることがあります。「あきともだち」の活動を幼保小でともに考え、それぞれのねらいを明確にして一緒に取り組むことで、互恵性のある交流になります。

団栗や紅葉した落ち葉など秋の自然物を集めたもので、飾りをつくったり、おもちゃをつくって遊んだり、とっても楽しい時間になると思います。



動画配信中

「非認知能力」を育む子育て講座3 京都教育大学 教授 古賀 松香 先生

【演題】「はじめの100か月」に大切にしたい学びとは

(令和7年6月28日実施)

動画視聴はこちら



積極性や粘り強さ、問題解決力、コミュニケーション力など、個人の人生に大きく関係する「非認知能力」を育む乳幼児・小学生の子育て講座 第3弾! 今回の講座では、乳幼児期の発達を踏まえた遊びや生活の中で育まれる学びの芽、乳幼児期の豊かな遊びの経験と小学校での学びのつながりなどについてご講演いただきました。



◎ 学校指導課 架け橋コーディネーター（幼稚園籍・小学校籍）が みなさまの園・所・学校へ 動きます! サポートします!!

まず、お気軽に
ご相談を!

校内研修や合同研修、支部研修などの講師派遣、その他ご相談

お問い合わせ 学校指導課 TEL 075-222-3746まで

今年度、約36校園に架け橋
コーディネーターが対応して
います!

コラム

なかにしサンの 幼分補給

ある学校の一年生の授業を見ました。つるの伸びた朝顔を部屋に持ってきて、観察しながら、支柱を立てる必要性を感じ、活動する授業でした。「こんなに伸びた」ことを椅子の上に立ってアピールする子、本葉は毛が生えて「つるつるじゃない」ことを言葉で表現する子など、温かい自由な雰囲気。そして、先生は「隣の部屋に支柱があるので、今からそれをセットすること、部屋でセットすると運びづらいから、教室の外の最終置場で立てること」を伝えておられました。つるがいっぱい伸びている「僕の朝顔」が嬉しいA君。隣の部屋に行き、先生の言うことを忘れてその場で支柱を嬉しそうに立てていました。いざ、持つときになつて「なんやねん。もちにくいやん。でもやるしかない」と言いながら、必死で持つて廊下を歩き、外靴に履き替えて所定の場所まで行ったら、その支柱が自分のものでないことがわかり、落胆しつつも支柱をぬいて上靴に履き替え、部屋まで戻り、自分の支柱であることを確かめ、また外靴に履き替え、やっと自分の支柱を立てることができました。その時のやり切った嬉しそうな顔…。ほっとした姿…。ちよつと先生の指示を忘れたかもしれないけど、あきらめずに最後まで一人でやり抜く姿がありました。子どもを信じて広

中西 昌子（なかにし しょうこ）



京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を
経て、平成三十年度から現職。